

2019年6月3日付 鋼構造ジャーナル

外国人受け入れセミナーを開催

山口副理事長「外国人技術者には長い目で」
広島県鉄構工業会

格「特定技能」を新設した改正出入国管理法が今年4月1日から施行され、外国

人労働者の受け入れが拡大した。フアブリケーター業界の外国人雇用への関心は高く、外国人技術者雇用について正しく理解することを目的に、同工業会の通常総会終了後に

広島県鉄構工業会（理事長Ⅱ 山本泰徳・ステントス社長）は5月24日、広島市のホテルニューヒロデンで「外国人受け入れセミナー」を開催した。新たな在留資格「特定技能」を新設した改正出入国管理法が今年4月1日から施行され、外国人労働者の受け入れが拡大した。フアブリケーター業界の外国人雇用への関心は高く、外国人技術者雇用について正しく理解することを目的に、同工業会の通常総会終了後に

「技能実習」と「特定技能」制度について、関係法令や監理団体の関与、在留資格取得までの道のり、在留期間、技能レベルの違いなどを説明した。引き続き同工業会の山口幹雄副理事長（山口製作所常務）が「外国人技能育成プロジェクトについて」を演題に講演。同工業会が4月に山口製作所のベトナム現地関連工場や一般的なフアブリケーターの視察、技能実習生として日本で働いた体験者の感想などを紹介した。この中で、外国人を雇用しながらも言語や文化、風習の違いから多くの問題が起きていることに触れ、「日本には、郷に入れば郷に従え」のことがわが郷が、相手に寄り添う姿勢が大切。早急に成果を出してほしいとの期待感や理解できず、過大な要求は実習生に負担を与えるので長い目でみる努力が必要」と力説した。



説明に熱心に聞き入る参加者

製造業が盛んな広島県では外国人技能実習生の人数が全国ベスト5に入るなど多く、同工業会でも外国人労働者を雇用する組合員も少なくない。このため参加者は各講師の説明に熱心に聞き入っていた。